



保育科 教授

遠藤 清香 (えんどう さやか)

Endo Sayaka

自己紹介 (プロフィール)	障害児保育の研究をしています。特に発達障害のある子どもたちへの支援を専門にしています。すべての子どもがその子にあった環境で生活し学んでいけるようになることを願っており、保護者支援や教員支援についても興味を持っています。子どもたちとの関わりを大切に、実践的な研究をしていきたいと思っています。
学生へのメッセージ	学ぶことの最終的な目標は知識・技術を得ることではなく、得た知識・技術を使って、人に何かを伝えたり、社会に関わったりしていくことだと考えています。学生のみなさんと授業やゼミで学ぶ時間は私にとって大切に楽しい時間です。保育科での学びがみなさんの将来にとってかけがえのないものとなるよう努めてまいります。
保有学位	博士 (特別支援教育・応用行動分析学) オハイオ州立大学 修士 (心理学) 慶応義塾大学
保有資格・免許	臨床心理士 小学校教諭二種免許状
研究分野	障害児保育、特別支援教育、応用行動分析学、スクールカウンセリング
主な担当科目	障害児保育Ⅰ・Ⅱ、保育相談支援、障害児発達論 障害児保育特論<専>、算数科教育研究<専>
学内での活動	保育科長、入学試験委員会、自己点検評価委員会
学外での活動	山梨学院小学校・幼稚園 学習支援アドバイザー 山梨学院小学校学習カリキュラムセンター常任研究員 笛吹市子ども子育て会議委員
所属学会	日本保育学会、日本行動分析学会、日本教育心理学会、日本特殊教育学会 日本臨床心理士会、山梨県臨床心理士会、日本数学教育学会

主な職務実績 (抜粋)

事項 (単独・共同)	年月日	概要
(研修会)放課後児童支援員認定資格講師「障害のある子どもの理解」	H28.12	「障害のある子どもの理解」 山梨県児童館連絡協議会による放課後児童支援員認定資格研修にて講義を行った。放課後児童クラブ等での障害のある子どもへの対応について、保護者対応の大切さについて検討・考察した。
(講習)山梨学院大学免許状更新講習講師「子ども理解と教育相談」	H28.8	「子ども理解と教育相談」 山梨学院大学免許状更新講習(選択必修講習6時間)で講義を行った。幼稚園・小学校・特別支援教諭を主な受講対象者として、いじ

		めや不登校、発達障害など教育相談上の課題を分析し、カウンセリングマインドを生かした教育相談の在り方について検討していくとともに、スクールカウンセラー等関係職員との連携のあり方についても検討した。また保護者対応の大切さについても触れ、教育相談にどのように活かすかについても考察を行った。
(講座) 武田の里ライフカレッジ「発達が気になる子を支える家庭・地域の力」	H28. 7	「発達が気になる子を支える家庭・地域の力」 韮崎市主催の生涯学習講座にて、発達障害のある子どもへの対応について、保護者対応の大切さについて検討・考察した。
(講座) 県民コミュニティカレッジ「発達が気になる子どもへの支援—私たち一人ひとりができること—」(共同)	H26. 9～ H26. 11	山梨学院短期大学主催の生涯学習講座として、発達が気になる子どもへの支援について、全4回の講義形式で学ぶ講座を企画・実施した。第1回「発達障害とは?」と第4回「発達が気になる子どもとのかかわり2—学童期: 過ごしやすい環境づくり—」の講師も務め、発達支援に興味のある保育士や保護者、その他一般県民の方を対象に、発達障害の理解と支援の方法について講演を行った。

主な教育研究業績 (抜粋)

著書、学術論文等 (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等	概要
小学校での教師の「叱り」に見られる特徴 (共著)	H28. 3	山梨学院短期大学研究紀要 第36巻 pp. 96-105	本研究では小学校での教師の「叱り」の観察を行った。観察された14の「叱り」の場面について、中嶋(2014)「自己肯定感を高める「叱り」に必要な子どもとのかかわり方」の11項目と照らし合わせ考察した。観察された場面では、11項目のうち「言葉だけでなく、行動を伴わせる」「何がいけないのか、子ども自身を考えさせる」、「人任せにさせない」という特徴がよく見られた。一方、「できなかったことよりできたことに目を向ける」「できる限り黙って、子どもの行動を見守る」、「子どもに対しておごらない」は観察されなかった。叱られた後の子どもは、先生の思いを理解し、行動を改善させることができたという点から、本研究で観察された叱りには効果があったと考える。今後の課題として、「叱る」場面のみの観察だけでなく、「叱る」以外の教師の行為(褒める、励ます、一緒に楽しむなど)との関連を含めた詳細な観察が必要だと考える。 (著者名: 依田あろま・遠藤清香)
空間的思考力を高める算数授業の提案—小学4年生を対象として— (共著)	H28. 3	山梨学院短期大学研究紀要 第36巻 pp. 121-126	本実践報告では、小学校4年生を対象に「直方体と立方体」の授業を行った結果を報告した。立体を切り開く活動を含む授業の中で、児童は、頭の中で立体を切り開いたり展開図を組み立てたりする「念頭操作」を実際に行うかを観察・検討する。小学3～4年生の空間表象力の発達にはばらつきがあることが先行研究で報告されているが、授業実践においても立体・平面の念頭操作には個人差が多く見られることがわかった。 (著者名: 牛奥祐太郎・井上早矢・遠藤清香)
病棟保育士の役割—病棟保育士へのインタビュー調査から— (共著)	H27. 3	山梨学院短期大学研究紀要 第35巻 pp. 27-36	病気のため入院生活を送る子どもたちの院内での生活の質を向上させるため、病棟保育士の導入が進められている。本研究では、病院現場で働く病棟保育士にインタビュー調査を行い、病棟保育士の目から見た病棟保育士の役割、利点や課題について考察した。 (著者名: 赤池美紀・遠藤清香)

<p>学びを深めるために必要な力ー友達に声をかけることとよりよい学びあいの関連性ー (共著)</p>	<p>H24.3</p>	<p>山梨学院大学 附属小学校研究紀要 第6巻 pp. 73-78</p>	<p>「学び合い」の授業をより効果的に進めるために必要とされるものは何か。「学び合い」の授業の様子を観察していると、学級の特定の児童にしか声をかけない様子が見られることがある。そのため、本研究では、友達に「声をかける」ちからを育てる授業実践を行い、それが、「学び合い」の授業の成立に効果を及ぼすか検討した。研究の結果、授業実践の前には自分ができるようになることだけを考えて行動していた児童が、「声をかける」ことに重点を置いた授業の後の「学び合い」の授業では、友達に声をかけ、みんなができるように振る舞う姿が見られた。しかし、児童の行動の変化の原因が「声をかける」ことに重点をおいた授業実践であるかどうか確認するには、さらなる研究が必要と思われる。</p> <p>(著者名：望月裕子・遠藤清香)</p>
--	--------------	---	--

YGJC201705101355